

真岡市市民活動推進センター

「高校生のボランティアの機会の現状とボランティアに対する意識の調査」報告書

1. 目的

このアンケートは、真岡市内に住むあるいは通学する高校生がボランティアについてどう思っているかを調査し、今後のウィズコロナ・アフターコロナ社会も踏まえた高校生によるボランティア活動支援の一助とするため実施した。

2. 実施期間

令和4年6月14日（火）～令和4年7月29日（金）

3. 調査対象

真岡市内4高校、芳賀郡2高校、宇都宮清陵高等学校の生徒の皆さん

（真岡・茂木・益子芳星・宇都宮清陵：ボランティア部、真岡女子・真岡工業・真岡北陵：全校生徒）

4. 調査方法

アンケートフォームによる収集

5. 回収状況

アンケートの回収状況は下記の通り。

調査対象者数※	1,532人
回収数	69票
有効回収率	4.5%

※茂木・益子芳星・宇都宮清陵の生徒からの回答数0であり、調査対象に含めたが「真岡市の将来を担う」といった質問の趣旨も鑑み、本結果から除外した。

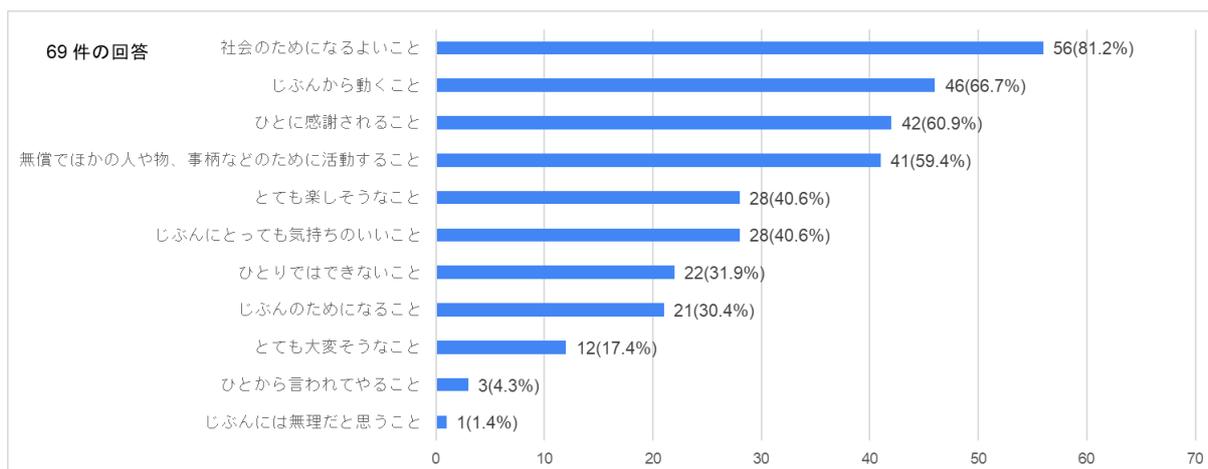
6. アンケート結果

S1. 調査対象者の基本属性

項目		
学年	1年生	46.4%
	2年生	21.7%
	3年生	31.9%
性別	女	62.3%
	男	36.2%
	回答しない	1.4%
住んでいる市町	真岡市内	58.0%
	芳賀郡内	11.6%
	その他の県内市町	29.0%
	県外の市町	1.4%

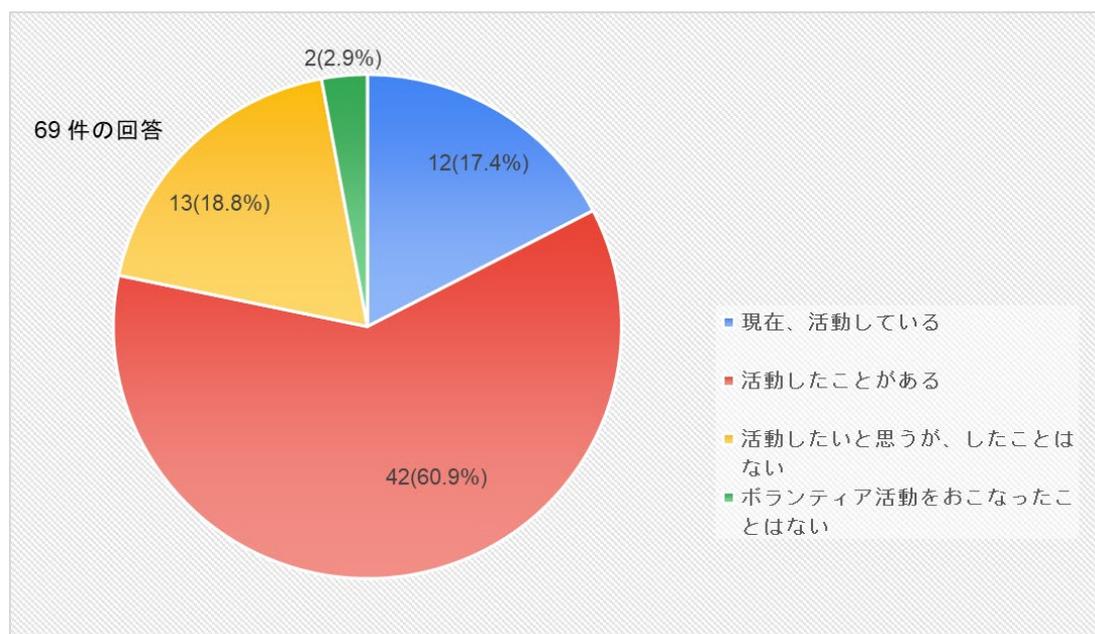
S2. ボランティアについて

1. あなたはボランティアについてどのようなイメージをお持ちですか。



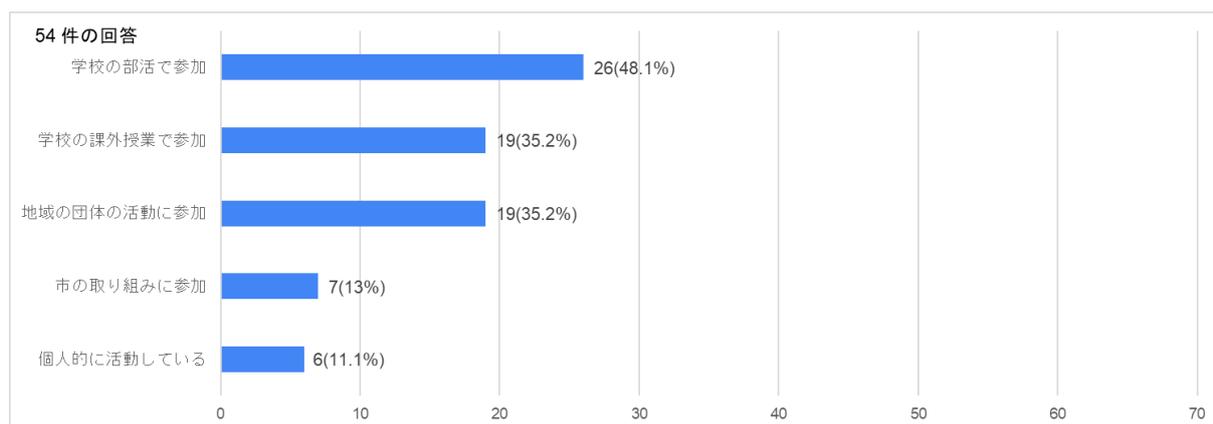
ボランティアに対するイメージは、「社会のためになるよいこと」が56件（81.2%）と最も多かった。次いで、「じぶんから動くこと」、「ひとに感謝されること」、「無償でほかの人や物、事柄などのために活動すること」をそれぞれ半数以上が選択していた。

2. あなたはボランティア活動をしていますか。



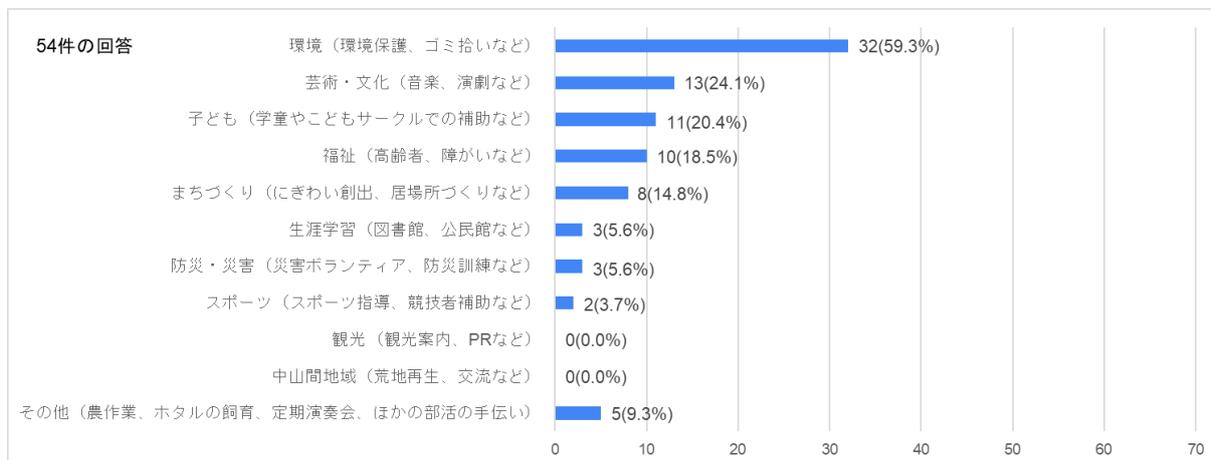
ボランティアの活動状況については、54人（79.7%）の学生が何らかの活動経験があり、うち12人（17.4%）は現在も活動をしていた15人（20.3%）は活動経験がなかった。

3. 【2で「活動している」または「活動したことがある」を選んだ方のみ】どんな機会に活動へ参加されましたか。



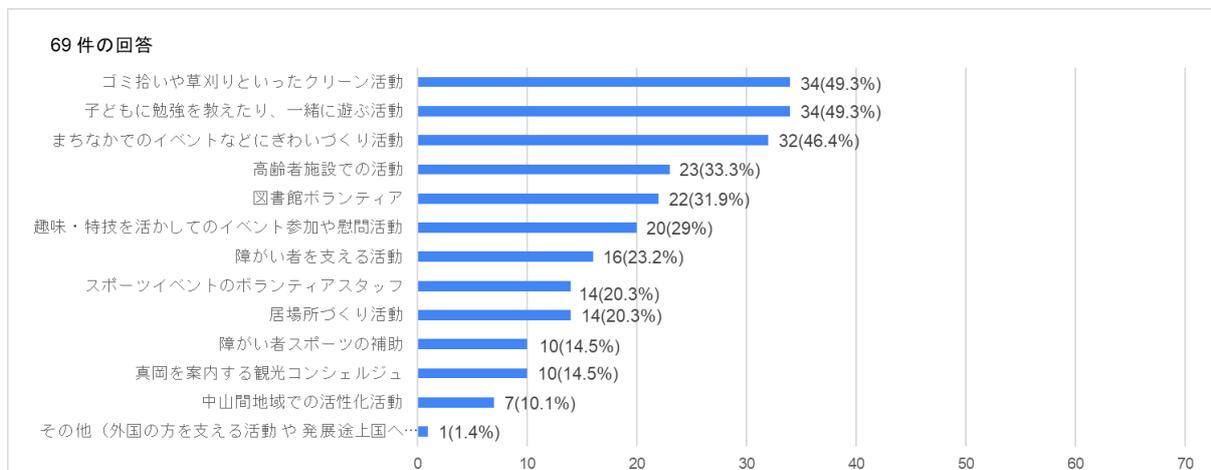
活動の機会については、26件（48.1%）が部活、19件（35.2%）が課外授業と学校関係での参加という回答が多くみられた。また、地域の団体の活動が19件（35.2%）であった。

4. 【2で「活動している」または「活動したことがある」を選んだ方のみ】あなたはどんな種類のボランティアに参加しましたか。



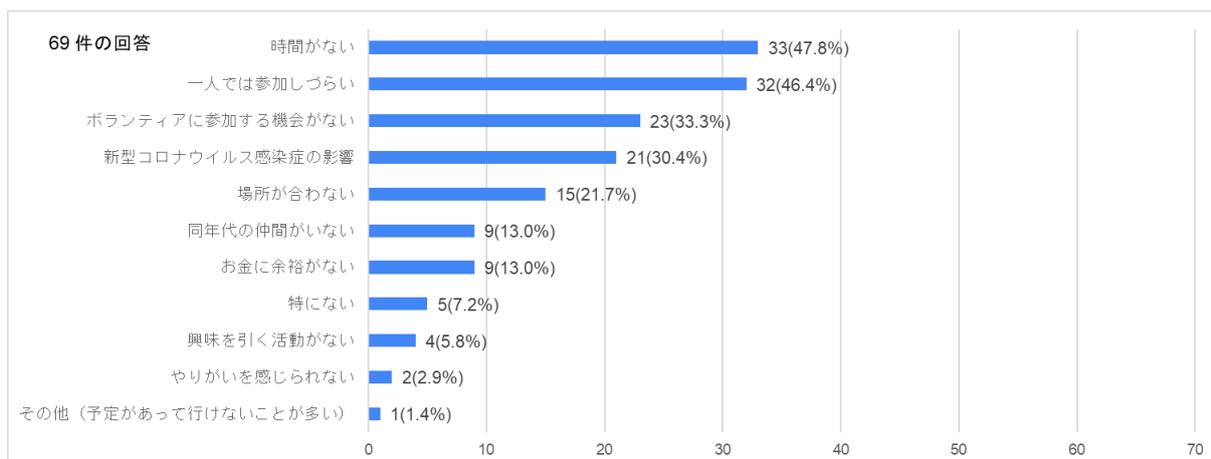
活動したことがある内容については、「環境（環境保護、ゴミ拾いなど）」が特に多く 32 件（59.3%）で、「芸術」「子ども」「福祉」「まちづくり」が 1 割以上の方に選択された。

5. 今後、参加予定または参加したいと思う活動はありますか。



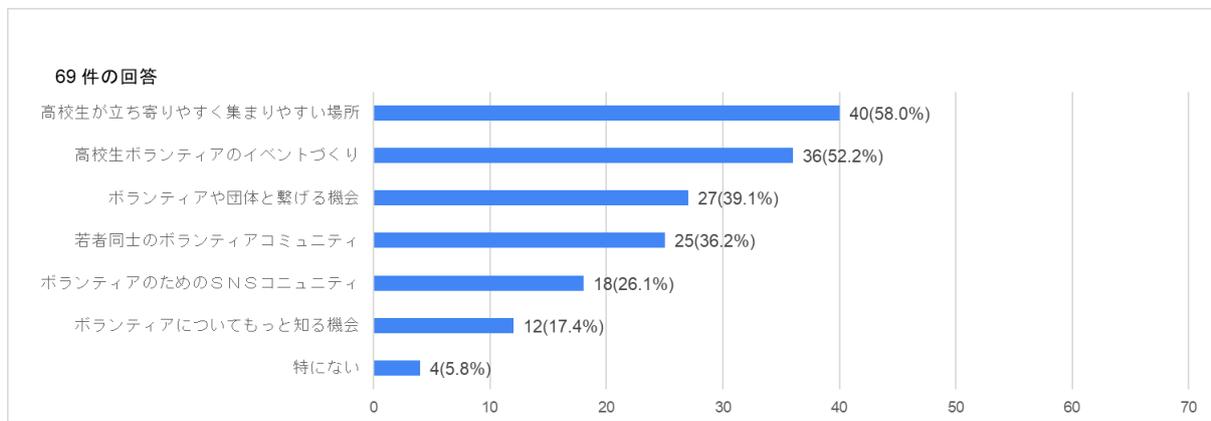
活動してみたい内容については、「ゴミ拾いや草刈りといったクリーン活動」「子どもに勉強を教えたり、一緒に遊ぶ活動」が最も多くそれぞれ 34 件（49.3%）、次いで「まちなかでのイベントなどにぎわいづくり活動」が 32 件（46.4%）であった。また、その他以外の項目で 1 割以上の選択が見られた。

6. ボランティア活動を行う上でハードルとなっていることはありますか。



活動へのハードルとして、「時間がない」33件（37.8%）が最も多く、「一人では参加しづらい」32件（46.4%）、「ボランティアに参加する機会がない」23件（33.3%）と続いた。また、「新型コロナウイルス感染症の影響」も21件（30.4%）と多く、コロナ禍の影響が要因の一つとして表れていた。

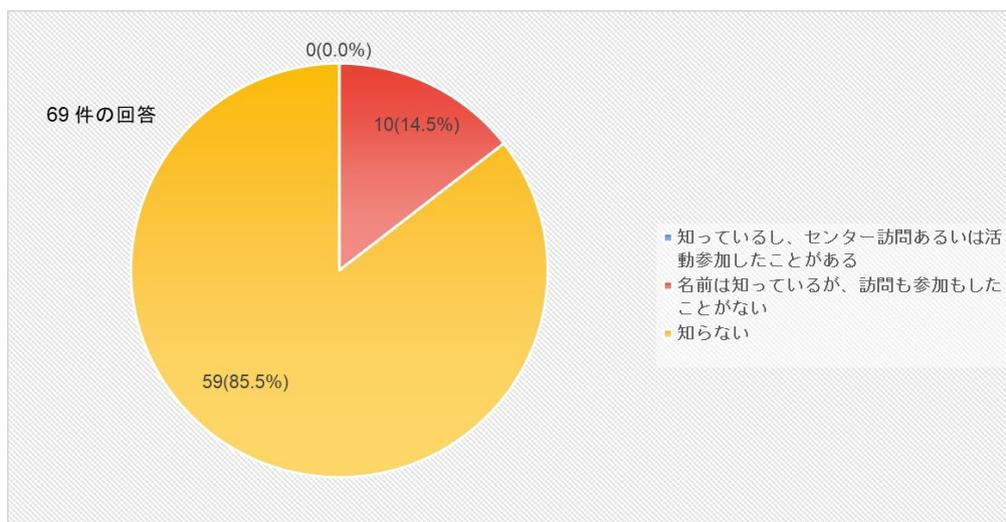
7. 前の質問を踏まえて、どんな支援があればボランティアに参加しやすいと思いますか。



ボランティア参加への支援については、「高校生が立ち寄りやすく集まりやすい場所」40件（58.0%）、「高校生ボランティアのイベントづくり」36件（52.2%）が過半数を超える結果となり、高校生同士が集まれる場や活動づくりに関心が集まった。

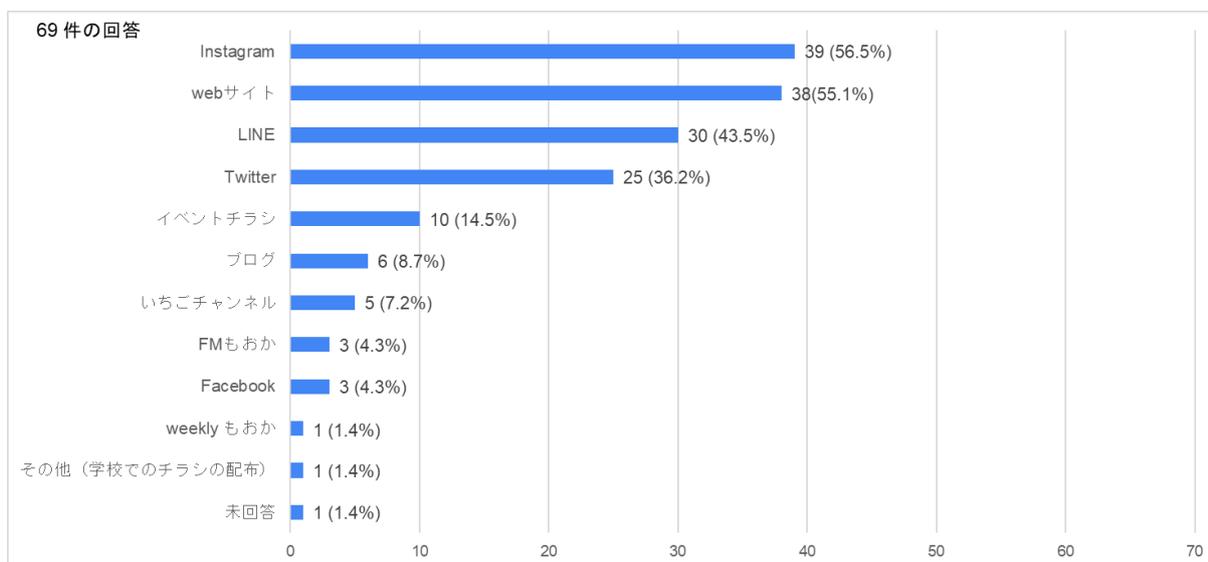
S3. 真岡市市民活動推進センター（愛称：コラボーレもおか）について

1. 「コラボーレもおか」を知っていますか。



真岡市市民活動推進センター（以下、コラボーレもおか）について尋ねたところ、85.5%に当たる59人が「知らない」と回答した。残る10人は「名前は知っている」ものの、センターの活動に参加したことがあるのは0人だった。

2. 「コラボーレもおか」からボランティア情報などを手に入れたら、どんな仕組みを使いたいですか。



コラボレーもおかから情報入手しやすい手段については、「Instagram」39件（56.5%）、
「web サイト」38件（55.1%）、「LINE」30件（43.5%）、Twitter25件（36.2%）が
上位にあり、SNS を中心にデジタルでの対応を支持する回答となった。

7. 総括

ボランティアについては、その特徴である「社会性」「自発性」「無償性」に沿った回答がそれぞれ 5 割以上見られ、ボランティアへの理解が進んでいるようであった。そのほかにも前向きな選択が多く、ボランティアに対するイメージは比較的良好に感じられた。ボランティアへの参加経験者が 8 割近いことが、理解を深める要因かと考える。参加の機会は学校関連が多かったが、地域の団体による活動への参加も 3 割強見受けられた。後述の活動内容で環境活動が多いことから、自治会の地域清掃などへの参加も含まれるのではないかと考える。個人で活動していると答えた方も少数おり、より自発性の高い活動が期待される。

活動内容については、環境系の活動は参加経験・参加希望ともに高くバランスが取れているが、子育て支援活動やまちなかイベント活動などについては高いニーズに反して参加したことがあるという回答は少なかった。全体的に見ても参加した活動への回答より参加したい活動への回答の方が多く、それぞれの活動の入り口が不足しているように感じた。

活動する上でのハードルとして、時間がないことや一人での参加しづらさ、参加機会の少なさが挙げられた。高校生の居場所やイベントなどを通して、情報の共有や活動機会を増やし、内容を差別化することで、活動へのきっかけや参加者の増加につながるのではないかと考える。そのためには、受け入れ団体のボランティアコーディネーション力の向上やイベント企画の多様化などを高校生が参加しやすい活動づくりを支援する必要がある。また、コロナ禍の影響を挙げる方も 3 割を超えることから、これからのウィズコロナの時代にどういった対応、投げかけをしていくべきかを中間支援組織として検討していく必要を感じた。

高校生によるセンターの認知度・利用状況の低さについては、立地面や利用機会が作れないでいたことなどが挙げられる。特にこの数年はコロナ禍により、学校全体で外部での活動の自粛や、センター事業の中でも高校生と接点のあったコラボまつりやクリーンボランティアといった事業が中止となったことによる影響は大きい。今後は SNS を中心とした高校生が受け取りやすい情報発信に努めながら、センターの認知度の向上に努めるとともに、ボランティア活動への参加を促していく必要を感じた。